
【600文字小説】ユウ イ【お題：ほのぼのとしたホラー】

・・・暴走したのを恥ずいけど貼る。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【600文字小説】ユウ イ【お題：ほのぼのとしたホラー】

【Zコード】

N5682R

【作者名】

・・・暴走したのを恥ずいけど貼る。

【あらすじ】

ユウ イ

にはいるのは何でしょうか？

何でしょうかね……。

(前書き)

Miyukiさんにお題をもらったので、電撃に×切間に合わない
と踏んでこつちを先に書き上げました！

まあ、風呂上がりに思いついたネタを書いただけなんですけどね…
…。

ってーかほのぼのホラーって、難しいですね……。

深夜、あてもなくその辺を歩いてみると、暗い公園にさしかかる。ふと横のブランコに目をやると、そこに『いた』

いや、いたという表現はふさわしくないのだろうか。とりあえず『いた』のだ。

幽霊が。

職業柄、そういった物に触れる機会が多いのだが、正直、このシチュエーションは何度経験しても慣れない。

とりあえず近づいて接触を取ることにした。困っている人を放っておけないのも職業柄なのか。

外見から推測して幼稚園児くらいだろう。一応言葉は分かる歳だろう。

「ねえねえ、ボク、どうしたの？ なにか悲しい事でもあった？」
経験上、幽霊は死んだという自覚がないのだ。そして幽霊になるにはそれ相応の未練があったから、現世にとどまっているのだろう。と、推測できる。だが、明確な事は分からない。

「あのねえ……、みんなボクと遊んでくれないの。前はボクの顔を見るなり石をぶつけてきて、今はボクの顔を見るとみんな逃げちゃうんだ。ねえおじさん、あそんでくれる？」

久々に楽に仕事が片づきそうだ。

「ああ、友達がいっっぱいいるところにつれてってあげるよ。おじさんについてきてね」

「うん！」

子供は元気に返事をする。手を繋いで、まだ？と目配せしてきた。「連れてってあげるよ。友達のいっっぱいいる場所に」

俺は心の中で、見せ物になるけどな。とあざ笑った。

幽霊が見せ物になるなんて、世も末だな。

(後書き)

ユウレイをユウカイしちゃいました!!

ってかほのぼのもホラーもないとか言った人!!

ごめんなさいOTL

難しい……。

まだまだ経験不足ですね。頑張ります!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5682r/>

【600文字小説】ユウ イ【お題：ほのぼのとしたホラー】

2011年10月7日11時01分発行